

## Case Study > GLOVIA/Process C1

## 日本軽金属株式会社 様

情報子会社主導で原価計算システムの脱ホストを実現。 原価管理基盤の構築に挑む 業 種 製造業■ ソリューション プロセス産業向け原価管理システム■ 製 品 GLOVIA/Process C1

日本軽金属株式会社様は、アルミの製錬から最終のアルミ製品までを一貫製造している日本で唯一の企業です。同社はこれまで、原価計算のシステムを主にホストコンピュータで運用してきましたが、既存のシステムが抱える2つの課題を解決するため、新たなシステム構築を目指すことになりました。そこで選択されたのが、富士通のプロセス産業向け基幹業務パッケージ「GLOVIA/Process C1」の原価管理システムでした。

効

果

ホストコンピュータ上で構築した原価計算システム の運用コストのセーブ

事業部門の管理会計上のニーズや精度向上など 改善への対応

パッケージ導入による最新のシステム機能の獲得 と横展開 ホスト原価計算の機能移管を実現し運用コストの削減に成功

原価計算の精度向上とパソコン連携による管理会計を支援するシステムを構築

2工場に対して、情報子会社と富士通が共同で先行導入し、情報子会社へスキルの継承を実施

### 導入の背景

課

題

## 運用コストの軽減と管理会計の精度・作業効率向上を目指して 脱ホストを決断

日本軽金属は、長年、原価計算のシステムを主にホストコンピュータで運用してきましたが、大きく2つの課題を抱えていました。日本軽金属株式会社 蒲原製造所 業務経理課 経理担当課長 井上克哉氏は、その課題を次のように説明します。

「日本軽金属およびグループ会社では、これまでコスト面、将来性などの理由から多くのシステムでダウンサイジングを推進しており、残る原価計算システムについても全面的にホストコンピュータから脱却すべく機能移管することにしました。一方で原価計算システムについては、管理会計面で事業部門を支援したり、精度向上のための改善に柔軟に対応できるシステムが求められていました。」(井上氏)

管理会計を支えるシステムについては、財務会計と管理会計の連携性が 問題になっていたと、井上氏は次のように説明します。

「管理会計は財務会計の帳票を元に必要に応じExcel等で集計・加工して対応していましたが、これらの作業は大半を手作業にたよっているため、作業の効率化やスピードアップ、財務会計との不整合の解消、様々な想定をシミュレーションできる柔軟性が課題になっていました。また、当社の場合、工場毎に

事業分野が異なり、上流の製造・販売部門のシステムの成熟度、管理の手法 も様々であることから、財務会計に管理会計をうまく織り込めないとシステムの部分最適が進行してしまうという問題を抱えていました。」(井上氏)

こうして、従来と同レベルの原価計算システムを脱ホストで実現すること に加え、プラスアルファとして原価計算の精度向上および管理会計処理の 負荷軽減を目指すプロジェクトが動き始めました。

#### 製品選定のポイント

# パソコンとの連携やシミュレーション機能の評価が高かった GLOVIA/Process C1を選定

日本軽金属のITシステムは、これまで自社開発が基本でした。今回のプロジェクトでも、当初は自社開発が予定されていましたが、途中からパッケージも検討対象になったと、日本軽金属株式会社 化成品事業部 管理部課長 大坪啓之氏は、その経緯を次のように説明します。

「最初は内製を前提に話が進んでいたのですが、あるとき、念のため会計パッケージも見ておこうということになり、富士通さんを含む3社から話を聞くことになりました。そのとき、我々が想定していた以上の機能をパッケージが持っていることがわかり、そこから、パッケージを活用した脱ホストへと考え方が変わっていったのです。」(大坪氏)

左より

日本軽金属株式会社 蒲原製造所 業務経理課 経理担当課長 井上 克哉氏 日本軽金属株式会社 化成品事業部 管理部課長 大坪 啓之氏 同 総合企画部 システム担当 尾崎 雅行氏 日軽情報システム株式会社 第一統括部 第二システム部 担当課長 生駒 安孝氏









こうして、富士通のGLOVIA/Process C1を含む3つの製品について、機能・ コストの比較・検討を開始。最終的に、GLOVIA/Process C1が選定されるに いたります。選定のポイントについて、日本軽金属株式会社 総合企画部 シ ステム担当 尾崎雅行氏は次のように説明します。

「機能評価で最も重視したのは、いかに簡単にデータをExcelに取り込ん で二次加工できるかでした。また、シミュレーション機能も重視しました。そ の他にも、コードメンテナンスの容易性、受払データ修正の容易性、導入手 法などもチェックし、そのすべての項目でGLOVIA/Process C1が最も高い評 価でした。」(尾崎氏)

#### 導入経緯

#### 富士通と共同で2工場に先行導入してスキルの継承

プロジェクトの正式なキックオフは、2011年7月。まずは、清水工場と蒲 原製造所 グループ素材センターの2工場に対し、日本軽金属の情報子会社 である日軽情報システムと富士通が共同で先行導入し、残りの工場につい ては日軽情報システムが主体で導入することになりました。その理由につ いて、日軽情報システム株式会社 第一統括部 第二システム部 担当課長 生駒安孝氏は次のように説明します。

「導入にあたり、達成しなければならない使命がありました。 それは、日 本軽金属の原価計算システムのシステム間で共有している固有のコード 体系・構成をGLOVIA/Process C1上で機能させること。ならびに、作成され る会計情報を既存の一般会計システムへ確実に連携させることでした。 そこで、多様な工程の2工場の開発を富士通さん主導で対応いただき、 GLOVIA/Process C1上、固有機能が実施可能な環境を共同構築することに より、我々はその環境を軸に、他工場への導入・展開スキルを獲得すること ができると考えました。」(生駒氏)

開発の初期段階では、日本軽金属特有の機能を富士通側に伝えるため、 週に一回の打ち合わせを実施し、緊密なコミュニケーションにつとめました。 こうした努力が奏功し、プロジェクトは順調に推移。2012年4月には、2工場 とも、無事、本番導入を迎えることができました。

#### 導入効果

## 大きなトラブルもなく脱ホストを実現し、 管理会計に必要な煩雑な業務を大幅に効率化

ここまでのプロジェクトを総括して、大坪氏はその成果を次のように説明 します。

「今回は、パッケージを適用する大規模な事例としてははじめてのプロジェ クトでしたので、まずは、遅滞やトラブルもなく、運用開始できたことが最大の 成果だと考えています。その上で、清水工場については、原料転換後の工程 フローにも問題なく対応できましたし、高付加価値品の個別原価の把握も可 能になりました。蒲原製造所 グループ素材センターについても、財務会計と 管理会計の原価計算を並行稼働することが可能になりました。」(大坪氏)

導入効果は具体的な形としても現れています。従来は原価計算の処理 で状況によっては30分以上かかっていたのが、新システムでは大幅に短縮 され、効率化されたと、大坪氏は次のように説明します。

「これまでは、ホストから配信されてきた帳票をアウトプットしてからExcel に転記していました。しかし、新しいシステムでは、データを直接ExcelやBI に取り込め、さらにそれらを直接、工場や事業部門が共有できますので、資 料作成がとても楽になりました。さらに、シミュレーション機能が充実して いるので、精度の向上とスピードを実感しました。」(大坪氏)

## 今後の展望

## それぞれの成熟度に合わせて、GLOVIA/Process C1の横展開を予定

取材時点では、残りの工場への展開が行われている途上でした。このた め、まずは残りの工場および本社にGLOVIA/Process C1を導入し、2012年 度中に脱ホストを完了させることが第一目標となります。その後について は、井上氏は次のように説明します。

「ホストに代わるシステム基盤の整備を優先した導入フェーズは冒険を避 け慎重に進めた面もありますが、今後のフェーズでは、旧システムの制約に よりこれまで改善できなかった事項に、PDCAを回しながら継続して取り組ん で行きたいと思います。工程や製品毎のコスト把握を目指し部門を細分化 する、実態を反映した配賦を月次で実施するなどして精度向上を図るととも に、管理会計の面でもこれまでの仕事のやり方を変えて効率化を進め、予算 などの幅広い範囲で業務構築を進めていきたいと思います。」(井上氏)

プロジェクト成功のポイントについては、井上氏は情報子会社である日 軽情報システムの存在が大きかったと言います。

「先行する2工場で、パッケージ導入に必要なスキルを日軽情報システム に継承していただいたことが大きかったと思います。また、GLOVIA/Process C1はどの様なタイプの原価計算にも適合できる訳ではありませんが、主要 な部分は標準化しグループ内の情報子会社により横展開できる体制がで きました。」(井上氏)

原価計算システムの脱ホストを実現し、管理会計を支援するプラスαの システム構築にも成功した日本軽金属。GLOVIA/Process C1は、今後も、そ の経営を支える重要な基盤システムとして、活躍しつづけることでしょう。



#### 日本軽金属株式会社 様 ユーザープロフィール

東京都品川区東品川2丁目2番20号 本計所在地 石山 喬様

資本金 従業員数 390億8,465万4,715円(2012年3月31日現在) 単独 1,973名 連結 10,041名(2012年3月31日現在)

代表取締役社長 1939年3月30日

ホームページ http://www.nikkeikin.co.jp/

・本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は掲載日現在のものであり、このページの閲覧時には変更されている可能性があることをご了承ください。

記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。



